

半導体・量子技術・AIの最先端研究とデジタル人材の育成強化 ～日欧デジタル基盤ネットワークが始動～

日欧デジタル基盤ネットワークの第一回シンポジウムが、先月東京で開催されました。筑波大学と協定関係にある仏グルノーブル・アルプ大学が共同で呼びかけたこのプラットフォームは、日欧の産官学の連携により、半導体、量子技術、AI、およびそれらの応用における最先端の研究と人材育成の強化を目指します。

半導体、量子、AI等の分野で構成されるデジタル基盤と、グリーントランスフォーメーション、バイオ・ライフサイエンスをはじめとする様々な分野へのデジタル基盤活用が今日の社会を支える重要な要素となっています。そうした中、デジタル基盤発展のための最先端研究とこの分野での人材育成が国境を越えた喫緊の課題となっています。

キックオフとなるシンポジウムは、5月22～23日に日本科学未来館（東京都江東区）で開催され、日本とヨーロッパ（特にフランスとベネルクス諸国）のデジタル科学技術分野の主要な人々が一堂に会しました。

日本政府と欧州連合(EU)は、データガバナンス、人工知能、サイバーセキュリティ、半導体サプライチェーン、デジタルインフラなど、様々なデジタル分野における日本とEUの連携を強化することを目的として、2022年の第28回日EU定期首脳協議後に「日EUデジタルパートナーシップ」を立ち上げ、これまでに3回の閣僚級会合を開催しています。

一方、日本においても、筑波大学も参画しているLSTC(技術研究組合最先端半導体技術センター)での半導体人材育成など、この分野での機運が高まっています。

こうした流れを受け、筑波大学と仏グルノーブル・アルプ大学の呼びかけにより日欧の大学と研究機関の賛同を得て、このたび「日欧デジタル基盤ネットワーク」が発足しました。

今回のシンポジウムでは、マイクロエレクトロニクスや量子技術、スピントロニクスといった計算基盤、AIの応用、そして持続可能でグリーンなデジタル技術の3分野において新たにタスクフォースを設置することで合意がなされました。これらのタスクフォースは今後、国際的な共同研究や人材育成の新たな機会を見出すことを目的に、具体的な提言をまとめた報告書の作成に取り組んでいきます。



集合写真



永田学長による閉会の辞

【本件に関する問い合わせ先】

- ◆ 取材・報道に関すること
筑波大学広報局報道担当

TEL: 029-853-2040

E-mail: kohositu@un.tsukuba.ac.jp